

株式会社エフエムひらかたへの市の関与のあり方について

検証資料

検証項目

(1)災害情報伝達手段としての有用性

検証項目 (1)災害情報伝達手段としての有用性

①災害時情報伝達環境の変化

| | 平成9年設立時 | 令和2年 |
|--------|--------------------|---|
| 情報伝達手段 | 防災行政無線 コミュニティFM | 防災行政無線 コミュニティFM ホームページ SNS(フェイスブック、ツイッターなど) エリアメール Jアラート |

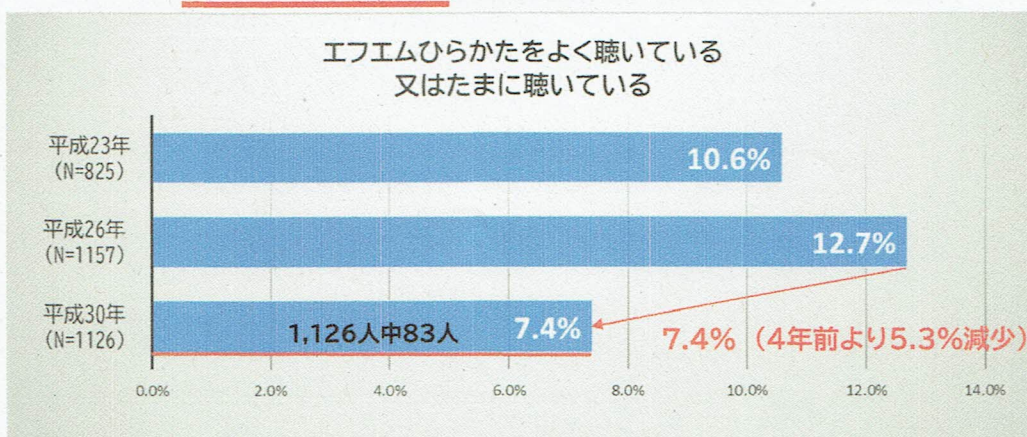
約20年間で情報伝達手段は多様化(多チャンネル化)
FM放送は主たる伝達手段から複数の伝達手段の1つに

検証項目 (1)災害情報伝達手段としての有用性

②エフエムひらかたの聴取率

【問】エフエムひらかたをどのくらいの頻度で聞いていますか？

エフエムひらかたを聴く人が減っている

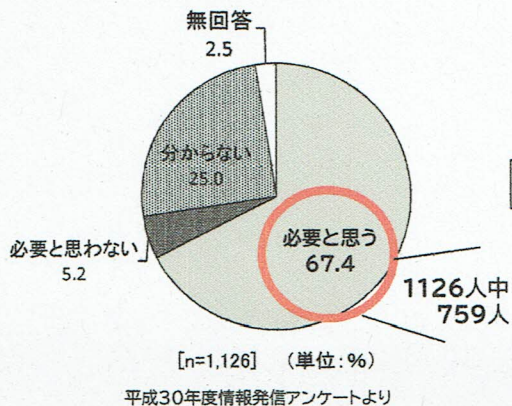


平成30年度情報発信アンケートより

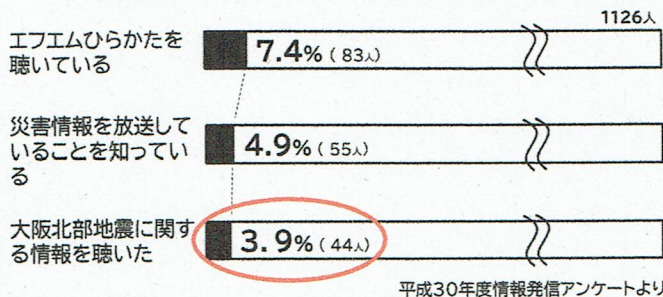
検証項目 (1)災害情報伝達手段としての有用性

③災害時における活用実態

【問】災害時に「エフエムひらかた」による地域の詳細な災害情報の発信は必要だと思いますか。



大阪北部地震発災時の活用状況(市民の活用実態)

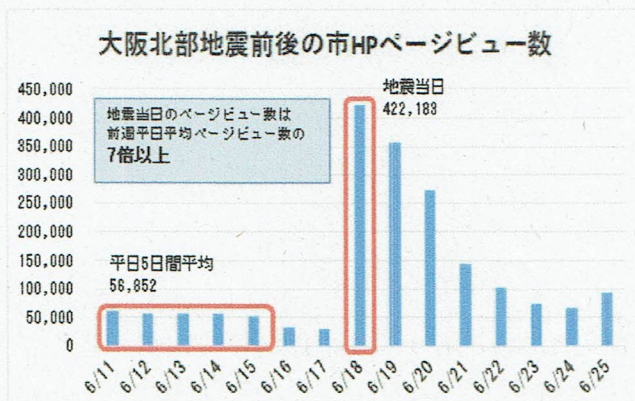


実際の災害時に放送を聴いたと答えた人は
3.9% (1126人中44人)

検証項目 (1)災害情報伝達手段としての有用性

④災害時における情報収集

大阪北部地震発災直後は市公式ホームページへのアクセス数が7倍以上



アクセス手段の6割がスマートフォンによるもの

市SNSへのアクセス数についても同様の傾向がみられる。

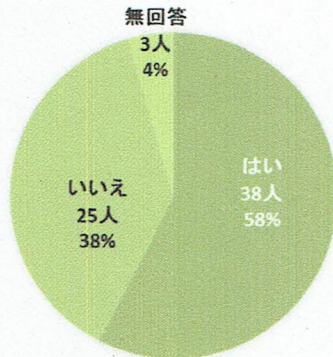
多くの方は災害時の情報をインターネットやSNSから収集している状況

第5世代移動通信システム5Gへの移行もあり、モバイルによるアクセスの増加傾向がみられるものと推測できる。

検証項目 (1)災害情報伝達手段としての有用性

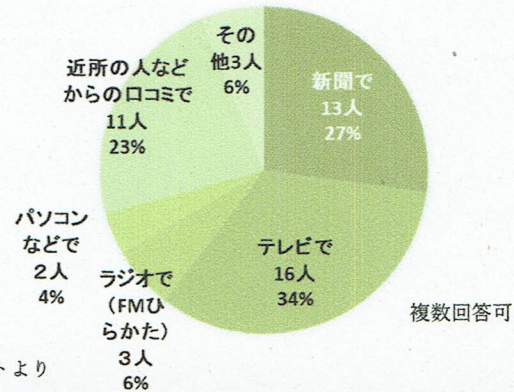
⑤高齢者における情報収集手段

スマートフォン又はタブレットを持っていますか？



ひとり暮らし老人会「赤いペレー」アンケートより

スマホがない方で大阪北部地震の際の情報収集手段は？



スマホがない方の災害時の情報収集は、テレビや新聞、口コミが大半を占めている。災害時の情報については、複数の手段により収集している実態がみられた。

検証項目 (1)災害情報伝達手段としての有用性

⑥災害伝達手段としての活用

| | コミュニティFM | ホームページ・SNS・エリアメール等 |
|-----|--|--|
| 発災前 | 地震：事前周知は不可 風水害：避難指示など主体的にラジオで聴取する必要あり。FMの聴取率を鑑みると効果は低い。 | 地震：事前周知は不可 風水害：避難指示などスマートフォンに直接通知、あるいはその情報にいつでもアクセスできること、スマートフォンの普及状況等から周知効果は期待できる。 |
| 発災後 | 地震・風水害：支援物資の状況、地域被害状況など周知が可能。随時の音声放送となるため、必要な情報を得るには継続して聴取する必要がある。 | 地震・風水害：支援物資の状況、地域被害状況など周知が可能。直接通知あるいはHP等への情報掲示により必要な情報にアクセスが可能。 |
| 備考 | 音声での詳細情報の放送には限界がある。災害対応が長期になる場合、生の声による励まし、心温かい癒しの効果が期待できる。 | 写真や動画、図形、リンクの添付等により分かりやすく詳細情報の掲示が可能 |

ホームページ・SNSでは伝達すべき情報を詳細に伝えることができ、アクセスすることでいつでも必要な情報が確認できる。

FM放送の場合は、必要な情報を得るために継続的にラジオ放送を聴き続ける必要がある。エフエムひらかたを聴いている人は少なく、情報伝達手段としては効果は低い。

検証項目

(2) 平常時の市提供番組の効果

検証項目 (2) 平常時の市提供番組の効果

市の番組制作・委託業務内容

◇平常時における災害時の緊急放送体制を維持するための放送委託

市放送委託料(令和元年度5047万円)による製作番組
全13プログラム(市提供番組)

1日2.5時間
年約950時間

緊急情報

災害発生時、市災害対策本部と連携しながら通常番組を災害情報に切り替え、地域に密着した情報を提供する。

一般情報

広報ひらかたに掲載する市からの各種お知らせ記事を編集し、毎日放送。

特集情報

ゴールデンタイムを中心に放送。市職員やボランティアが出演し、市の施策や地域イベントを紹介。サテライトスタジオを活用して多彩な分野で活躍する市民を紹介。「けんしんで安心」「枚方教育ステーション」「コミュニティひらかた」「環境定期便」「安全・安心ひらかた」を放送。

市提供番組

検証項目 (2)市提供番組の発信効果

主管課へ市提供番組の発信効果についてのヒアリング調査結果

◇放送内容について

放送内容がルーティーン化している／これ以上の放送枠を拡大するのは難しい。

◇枚方の魅力周知に役立っているか

エフエムひらかたを聴いて市へ問い合わせたという電話は一度もない
市民の反響がほとんどない
全戸配布される広報紙の方が効果的であると思う。

◇番組が無くなった場合の代替手段は必要か

市ホームページや広報紙、民間の情報媒体で発信した方が有効

◇その他意見

職員のスキルアップになるが費用対効果が良くない
エフエムひらかたへの委託料を広報紙の充実に使った方が効果的

検証項目

(3)経営戦略プログラムの検証

検証項目 (3) 経営戦略プログラムの検証

エフエムひらかた 経営戦略プログラム【平成26年度～令和元年】

▶ 達成すべき目標

- ①災害時の放送体制の確保
- ②リスナーの拡大
- ③安定した財務基盤の確立

検証項目 (3) 経営戦略プログラムの検証

①災害時の放送体制の確保

取組内容

- ・ 災害時マニュアルの充実
- ・ 市の防災訓練と連携した訓練の実施
- ・ 災害時の緊急割り込み放送訓練の実施

検 証

それぞれの内容については確保できているが災害時の放送体制を担保するためには、これまでと同程度の放送委託により、市の継続的な支援が不可欠

検証項目 (3) 経営戦略プログラムの検証

②リスナーの拡大

- ・放送業界で評価の高い賞を受賞するなど、魅力的な番組作りに取り組んできた。
- ・自動車納車前にラジオにプリセットするなど、民間事業者の協力による取り組みを精力的に進めてきた。

それらの成果として、エフエムひらかたの聴取率の向上には繋がっていない。

リスナーの拡大は、新たなスポンサーの獲得やCM収入の増加に繋がる取り組みであり、聴取率の低迷は経営に大きな影響を与える課題である。

検証項目 (3) 経営戦略プログラムの検証

③安定した財務基盤の確立

市の放送委託料の段階的な減額に対し、新たなスポンサーの獲得など独自の収入増加に努め、収入は市委託料を除くと約791万円の増加

放送収入等の比較

| | H25年度 | H30年度 | | |
|---------------|-------------|-------------|------|-------------|
| 放送収入（市委託分） | 61,518,000円 | 51,000,000円 | ↓ 減額 | } 約1,052万円減 |
| 放送収入（市委託以外） | 21,742,434円 | 24,420,617円 | ↑ 増額 | |
| 広告収入（FM情報誌広告） | 1,401,750円 | 2,912,200円 | ↑ 増額 | } 約791万円増 |
| 営業収入（イベント収入等） | 3,239,950円 | 6,966,092円 | ↑ 増額 | |

検証項目 (3) 経営戦略プログラムの検証

決算の推移

| | 収入 (市放送委託料) | 支出 | 損益 |
|--------|----------------------|---------|-------|
| 平成28年度 | 8,466万円 (5,363万円) | 8,451万円 | 15万円 |
| 平成29年度 | 8,800万円 (5,286万円) | 8,752万円 | 48万円 |
| 平成30年度 | 8,549万円 (5,100万円) | 8,566万円 | ▲17万円 |

※収入：放送・営業収入
※支出：原価、販売費、管理費

- ・ 経営は市の放送委託料に大きく依存している状況
- ・ 平成30年度には純損失を伴い、今後も委託料を減額した場合は恒常的な赤字決算リスクが懸念される。
- ・ 大規模な経営の見直しを行わず、現状の組織体制や事業規模を維持したままで安定した経営を目指すのは難しい。
- ・ 一方で独自収入の増加実績を踏まえると、事業規模等の見直し等により自立経営等の可能性の余地はある。